

第73号 「見えないもの」

令和2年3月19日

令和2年2月末から、世界中でコロナウィルスが猛威を振るいました。命が脅かされ、人の流れが止まり、経済が停滞し、世界的規模で緊急事態となりました。実体のわからないものに対する脅威の中、この日本において、ある期間、トイレットペーパー等の紙製品が入手困難な状況になりました。紙製品はほとんどが中国で作られているから手に入らなくなるという嘘の情報が、SNSによって拡散された結果で起きたことです。最初にこのデマ情報をあげた人の意図はわかりませんが、それを見た不特定多数の人が真偽を確認せず拡散させ、それを見た人たちがこれまた真偽を確認せず紙製品を大量に購入した。この情報はデマだったとわかったにも関わらず、周りに流されみんなが買った。こんな構図があったと思います。つまり、日本人はデマに踊らされたということです。

人を信じることは大切です。しかしそれは、その人と理解し合えたことによつて築かれた信頼関係の上に成り立っていることです。残念ながら、人の言葉やSNSに書かれている文字には、嘘の情報があることも事実です。中には、故意に嘘の情報を流す者まで存在します。今はネット等で情報が簡単に手に入ります。そしてこれからは、自分が考えなくても人工知能が答えを出し、行動の指示までしてくれる世の中になっていくことでしょう。もしかしたらその行動さえロボットが代わりにやってくれるかもしれません。これからの社会を担っていく若者たちには、目や耳から得た情報を自分の頭で考え、さらには心を使って、物事の本質を見極める力を身に付けて欲しいと強く思います。

フランスの作家、サン=テグジュペリの代表作『星の王子さま』に、次のような一節があります。「心で見なくっちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは目に見えないんだよ。」

人は、真実を見ているつもりでも、実は自分にとって都合の良い見方をしていることが多いのかもしれませんが。そして、実際に見えるものや数値化できるものにばかり心を奪われてしまい、目に見えない多くの大切なものの存在に気が付くことができない状態に陥っているのかもしれませんが。

新型ウィルスは顕微鏡を使えば見ることができ、そのうち新薬が開発され、人間の大きな脅威から除外されるでしょう。しかし、「心」を可視化することは困難です。だからこそ人間は、悩み、考え、そして成長するのです。人の目に見えるものは4%で見えないものは96%とする説がありますが、私はいつまでも、目に見えないものの大切さを感じる自分であり続けたいと思っています。見えないものの中にこそ、真実があるのかもしれませんが。